

書院祭祀に関する基礎的研究：近世台湾書院を中心として

簡，亦精

<https://hdl.handle.net/2324/1440983>

出版情報：九州大学，2013，博士（文学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

論文審査の結果の要旨

本論文は、近世台湾を中心とした書院祭祀に関する研究である。書院は中国の近世において特に発達した私学教育機関であり、学術・教育面のみならず、政治・制度・経済・出版文化など様々な面で重要な意味を持ち、東アジア全体に与えた影響も大きい。書院に関しては1980年代以降、数多くの研究成果が公表されているが、書院の講学と学術の動向に主眼が置かれたものが主流を占めている。書院には、講学、蔵書、祭祀の三つの要素があると言われるが、従来の研究では、このうち祭祀に関する研究は極めて少ない。本論文は、この三大要素のうち、特に祭祀に焦点を当て、その中でも特異な性格を持つと言われる台湾の書院を取り上げ、書院祭祀の特色と意義について分析を行っている。その意味で、従来にはない書院研究の新たな方向を切り開いたと言える。

本論文の特色は大きく三つ挙げられる。一つは、書院の歴史を唐代にまでさかのぼって再検討することによって、書院祭祀の展開を検証し、その意義について具体的に考察した点である。本論文の第Ⅰ部がこれに当たる。

特に、従来の書院史研究では等閑視されてきた『職官分紀』所引の『集賢注記』なる資料を分析することによって、唐代における書院機能の発展に新たな光を当てた点、同じく従来重視されなかった類書や政書類に注目して、宋代の人々の書院祭祀に対する意識を明らかにした点、更には祭祀の要素に注目することにより元朝の書院政策の特徴を浮き彫りにした点、などが評価される。

もう一つの特色は、書院における祭祀の発生と展開の歴史を再検証しながら、台湾における書院祭祀の特色を明らかにし、その意義について論じた点である。本論文の第Ⅱ部がこれに当たる。

本論文が、宋代における書院の建物配置や祭祀対象・祭祀方法の変遷を分析することによって、両宋書院の祭祀空間・祭礼における相違点とその要因について明らかにしたことは、従来にない新知見である。台湾の書院祭祀に特徴的な道教的祭祀の原型を書院建築と祭祀対象、及び風水に代表される土俗的信仰との混淆の面から解明した点は、本論文の大きな成果と言える。特に、台湾の書院に特徴的な文昌帝君を祭祀するに至った経緯、知識人たちの受容の過程などを分析し、最終的に台湾書院の有する柔軟性と包容性を兼ね備える性格を明らかにしたことは、本論文の大きな研究成果である。

以上のように、本論文は新たな資料の発掘も含めて、多くの文献資料によって書院の歴史を再検証し、書院における祭祀の位置づけを行った上で、台湾書院祭祀の特異性がどのようにして成立したのか、またその意義はどこにあるのかということを知り解明したものである。更に台湾の書院祭祀に関する具体的な調査と探究を行うと共に、祭祀の意義に関する多角的研究を行うことなど、課題も多く残されているが、本論文は書院祭祀研究、台湾書院史研究に対して新たな提言を行ったものと高く評価できる。

以上のことから、本調査委員会は本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに十分な能力を持つものであると認める。